

広報委員会
(第25期 第2回)
議 事 要 旨

1. 日 時 令和3年1月29日(金) 12:00~14:00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席者 菱田委員長、松下副委員長、狩野幹事、所幹事、池邊委員、磯委員、多久和委員、大倉委員、伊藤委員、隠岐委員、辻委員、三成委員、渡辺委員
4. 配布資料
資料1 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)検討事項案
資料2 (自)PT提言と学術会議「中間報告」との比較
資料3-1 第25期日本学術会議パンフレット事務局修正案
資料3-2 第25期パンフレット構成案
資料4 会長動画原稿案

5. 議 事

(1) 日本学術会議の広報発信力強化について

菱田委員長より、資料1及び資料2に基づき日本学術会議の在り方に関する最終報告作成について説明がされ、その後、学術会議における今後の広報発信について意見交換が行われた。

意見については、松下副委員長に意見を集約してまとめ、2週間後を目途に幹事会に菱田委員長を通じて幹事会に提出することとした。

(主な意見)

○学術会議の情報発信力強化(全体)

・情報発信力強化のためには、情報の取捨選択ができるフルタイムの選任担当者が必要。

○学術フォーラム・公開シンポジウム関係

・開催後のアンケートをオンラインで行えば、データ処理や分析がしやすい。

オンラインならではの特性を活かしてデータを活用することが重要。

・今はオンラインで開催しているが、対面開催できるようになっても、オンラインの仕掛けは必要。

○提言関係

・提言の検討の前後に関係者を委員会にお招きして、意見交換を通じた人的つながりを築く。影響力ある方と直接的な人的つながりを築いたうえでその方に渡すことが重要。

・提言発出前後に、関係省庁の少なくとも担当部署の課長級クラスと意見交換するような場を学術会議として定期的を開催する。

- ・市民社会で様々な活動をしている NPO の関係者と幅広く意見交換や、シンポジウムで講演をいただく。いただいた意見を提言などに反映していけば、NPO としても自分たちの意見が反映されたということで、提言を使ってもらうことができる。

- ・提言の検討に当たっては、期にとらわれない継続性を持つ企画調整機関が必要。提言や国際関係も含め包括的にやらないとバランスを欠くことにある。

- ・提言をキーワードごとにカテゴライズすれば検索しやすい。

- ・世間一般に学術会議を注目してもらうために、国民の関心が強い現在の我が国の問題をテーマとする視点が重要

○ホームページ関係

- ・新着情報について、緊急性や訴求度が高いものは、広報委員会として「注目提言」や「人気記事」の様な形で位置付けて残していくような工夫をする。

○「学術の動向」関係

- ・学術会議は編集協力という立場であるが、編集もできる専門の方を入れる形で協力できる。

- ・外からの意見を積極的に取り入れるコーナーや、学術会議そのものを再考するような企画などを新設する予定。編集委員会としても特集記事の企画者とディスカッションして、学術会議内部からだけの発信にならないよう、工夫を始めている。

- ・一般からの問合せについて、専門の先生ができるだけ砕いて説明したものを掲載するという方法もある。

○その他

- ・公共のスペースに各種提言やシンポジウムの案内、動画ページを展示できれば、一般の方に見ていただける。過去のものも含めてそこで展示できれば、学術会議について一般国民に語りかける窓口を作るべき。

- ・学会との連絡会を活用して学協会に意見を聞くなど既存の仕組みでもできることはある。

- ・記者会見の様子について、外部のニュース配信サイトに記者会見の動画配信を任せるのではなく、学術会議として動画配信を積極的に考える必要がある。

(2) 第25期日本学術会議パンフレットについて

事務局より、第25期のパンフレットについて現状の進捗状況を説明し、意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・「主な意思の表出」のリストについては、人文社会系と自然科学系のバランスが重要。

(3) 日本学術会議ホームページについて

松下副委員長より、日本学術会議ホームページに掲載する会長の動画について説明がされた。

以上